

【人権課題:子ども】

自分たちの学校は自分たちでよくしよう～主体的な活動を通して～

玉野市立鉾立小学校

1 教科等 特別活動 児童会活動

内容(2) 異年齢集団による交流

2 研究主題について～設定の理由と基本的な考え方について～

(1) 児童の実態

本校は、児童数38名の小規模校で、明るく素直な児童が多い。一方で、教職員の指導が行き届きすぎて、指示待ちの場面が多く見られ、自分達で何か考えて行動したり、自分達の行動に責任をもって最後まで行ったりすることに弱さがあった。また、人間関係の固定化が見られ、自己肯定感も低い児童が多い傾向にある。

(2) 設定の理由

学校の主役を「子ども」にするために、「自分たちの学校は自分たちでよくしていく」という目標を設定した。目標に向けて少しずつ子ども達の主体的な活動を増やしていくことにより、子ども達は学校生活を楽しく過ごすための方法を自分事として考え、責任をもって行動できるようになることをねらった。その結果、子ども達はより意欲的に学校生活を楽しみ、また自他の人権を守る(お互いを認め合う)活動を通して自己肯定感も高まってくると考え、研究主題を設定した。

(3) 基本的な考え方

- 自分達の学校は自分達でよく(一部の人だけでなく、みんなが楽しいと思える学校)しようとする主体的な活動(学級活動・代表委員会・自分達で作る授業)を中心とし、異年齢集団による交流を意図的に組み込んでいく。
- 友達の話の聞いたり自分の意見を自由に言えたりすることができるように、子どもの心を育てることで学力向上につながっていくと考える。そのため、職員の組織を「ほんき部会」と「こころ部会」に分け、学力と心(人権)の両方から子ども達を育てていくことのできる体制を整える。

3 特別活動の評価規準

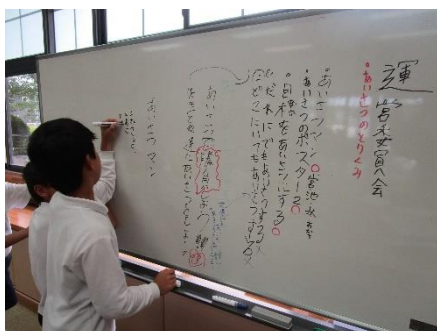
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
学校生活の充実やよりよい人間関係を形成するためには、学年や学級が異なる児童と共に楽しく触れ合ったり、協力して活動に取り組んだりすることが大切であることを理解している。 計画や運営、交流の仕方などを身に付けている。	「自分たちの学校は自分たちでよくしよう」という目標に向かって、子どもの考えを生かした活動の計画や運営、児童会の一員として自分の果たすべき役割などについて考え、学年や学級が異なる児童と共に楽しく触れ合ったり、協力して活動に取り組んだりしている。	異年齢集団におけるよりよい人間関係を形成する活動を通して、学年や学級が異なる児童と共に楽しく触れ合ったり、協力して活動に取り組んだり、主体的に取り組んだりすることによって、「自分たちの学校は自分たちでよくしよう」としている。

4 人権教育を通じて育てたい資質・能力

全校遊び「ドッジボール」	他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性 (技能的側面)
なかよし班そうじ	自他の価値を尊重しようとする意欲や態度 (価値的・態度的側面)

5 事前の活動(全校遊び)

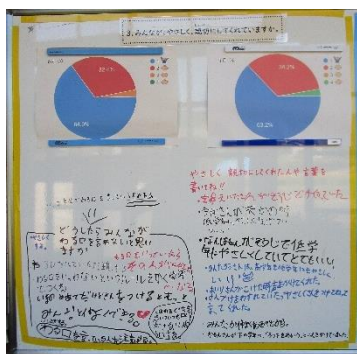
時期「学習活動」(めあて)	教師の指導・支援	見られた子どもの姿
6月 「天下統一」 (ルールを守って遊ぼう)	子ども達が主体的にめあてを立てて活動できるように、6年生にこころアンケートの結果を提示し、話し合いができるようにした。	・事後アンケートでは「普段の休み時間の遊びが楽しくなった」という意見があがり、ルールを守った方がみんな楽しく遊べることに気付いた。
10月 「陣とり」 (チームで協力して遊ぼう)	6年生に6月の事後アンケートの結果を提示し、次はどんなめあてにすればもっと楽しく遊べるか話し合いができるようにした。	・児童朝会で、なかよし班ごとに「チームで協力するとはどういう姿か」について話し合いをした。 ・事後アンケートでは、ほとんどの児童が「チームで協力して遊ぶことができた」と回答していた。
11月 「ドッジボール」 (友達の気持ちを考えて遊ぼう)	10月の事後アンケートの「相手に挑発されて嫌な気持ちになった」という意見に注目させ、次のめあてを考える話し合いができるようにした。	・児童朝会で、なかよし班ごとに「友達の気持ちを考えて遊ぶとはどういう姿か」について話し合いをした。



運営委員会で週目標を決める



児童朝会で学校の課題について話し合う



毎月ホワイトボードに考えを書き込む



児童がめあてを考えて全校遊びをする

6 本時について

【全校遊び】活動内容:「ドッジボール」

人権教育の視点から特に重要なこと……★

本時の 目標	みんなが楽しく遊ぶことができるように、友達の気持ちを考えながら、ドッジボールをすることができ る。	
	児童の活動	教師の指導・支援 評価規準・評価方法
	<p>1 めあての確認</p> <p>○6年生の呼びかけから、「友達の気持ちを 考えて遊ぶとはどういうことか」を全 校児童が共有できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どんなことができたなら、めあてが達成 できますか。」 ・「投げている人にボールをゆずる。」 ・「低学年には優しく投げる。」 ・「優しい言葉を使う。」 ・「『ナイス』などほめる言葉を使う。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時までに各学級で「どんな行 動が友達の気持ちを考えて遊 ぶことにつながるか」話し合う 機会を設ける。 ・話し合いで出た意見は、全校児 童が見える場所(ホワイトボ ード)に掲示しておき、取組前に 確認できるようにする。 ・発表後には拍手をし、児童が発 言を認め合える雰囲気づくりを する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> ㊦ 友達の気持ちを考えて遊ぼう。 </div>	
	<p>2 全校遊び</p> <p>○第1試合と第2試合の間に遊びの中で 気になることやできていることをふり返 ることで、第2試合ではめあてを意識し て遊ぶことができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ★めあてを守って遊ぶことができ ている児童を称揚する声掛け をすることで、児童の言動を価 値付ける。 ★審判は設けず、判定が微妙な 場合は、児童に「どうしたらお 互いに納得できるか」を考えさ せるようにする。
	<p>3 ふり返り</p> <p>○遊びをふり返り、感想を発表すること で、「友達の気持ちを考えて遊ぶ姿」を 全校児童で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「めあての『友達の気持ちを考えて遊ぼう』 ができていた人を発表しましょう。」 ・「Aさんがボールを渡してくれてうれしか った。」 ・「Bさんが下級生にボールを優しく投げ ていた。」 ・「Cさんが『ナイス!』って言ってしてくれ てうれしかった。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・低・中学年は、相手が不快 に思う言動について考え、 マナーを守って遊んでいる。 (思考・判断・表現) 【観察・発言】 ・高学年は、周りを気遣いな がら、全員が楽しめるよう に前向きで優しい声掛け をしている。 (主体的に取り組む態度) 【観察・発言】 ・低・中学年は、下の学年の 子やあまり投げしていない 人にボールを渡している。 (思考・判断・表現) 【観察・発言】

本時の目標	みんなで協力して、掃除をすることを通して、お互いのよさを認め合うことができる。	
児童の活動	教師の指導・支援	評価規準・評価方法
<p>1 はじめのあいさつをする。</p> <p>○班長は「協力」「やさしさ」「きれい」などのキーワードからめあてをを考えて言う</p> <p>・「今日は、自分の掃除が終わって、困っている人がいたら手伝うことをがんばりましょう。」</p> <p>・「今日は、教室をすみずみまできれいにするために、重たいものは協力して運ぶことをがんばりましょう。」</p>	<p>・事前に全校で共通するめあてを確認することで、班長だけでなく、全校児童が「協力」「やさしさ」「きれい」を意識した掃除やよいところ見つけができるようにする。</p>	
<p>㊦ 友達のよいところを見つけながらそうじをしよう。</p>		
<p>2 各班で考えためあてを意識して掃除をする。</p> <p>○黒板の上の方が届かない下学年を見て、上学年が手伝う。</p> <p>・「届く？上のほうは僕がするよ。」</p> <p>○すみずみまで掃こうとしている人がいたら、物をよけて掃きやすくする。</p> <p>・「邪魔になっているよね。これ持つよ。」</p>	<p>・担当の掃除場所でも、普段しないところに気付き掃除している児童を称揚することで、周りの児童もすみずみまで掃除できるような環境設定を行う。</p>	
<p>3 片付けをする。</p>		
<p>4 ふり返りで他者のよさを認め合う。</p> <p>○協力していた人、親切にしていた人、頑張っていた人を発表する。</p> <p>○班長は、掃除の評価を3つのマーク(こころアンケートで普段から目にしているマーク)から選び、よいところと課題の両方を言う。</p> <p>・「私が、黒板の上の方が届かない時に A さんが来てくれて、届かないところをきれいにしてくれました。」</p> <p>・「B さんが重たいものを持ってくれたので、すみずみまで掃除ができました。」</p> <p>・「今日の掃除は『すごい』マークでした。理由は、教室の角を掃く時に、Bさんが重たい机を持ってあげてすみずみまできれいにできていたからです。」</p>	<p>★児童が気付いていない、頑張っていた部分や親切にできていた部分を称揚する。</p> <p>★頑張っていたところを言ってもらえない児童については、前日の掃除と比べて頑張っていたことなどを称揚する。</p> <p>★班長が班員の様子をよく見てふりかえりを行っていた際に称揚する。</p>	<p>・高学年は、班員の児童が気付いていない、頑張っていた部分や親切にできていた部分を伝えたり、課題やその解決策を伝えたりしている。 【観察・発言】</p> <p>・低・中学年は、高学年からやってもらったことや手本にしたいことを伝えている。 【観察・発言】</p>